

令和6年度

# 研究のあゆみ

・ 潟上市立東湖小学校 ・



**研究主題** 自分の考えをもち、学び合いを通して高め合う子どもの育成

～自らの学びを実感できる授業づくりを目指して～

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

前年度の研究の成果

- ・ 課題を自分事として捉え、自ら解決方法に向かう意識の向上
- ・ 学び合いによる言合を認め合う意識の高まりと、自己の変容の実感

前年度の研究の課題

- ・ 自力解決と学び合いが促進する授業づくり
- ・ 自分の考えを言語化し伝え合う力の育成と、身に付いた力を実感できる振り返りの工夫

### 目指す子どもの姿

- 自分なりの根拠をもって考えを表現する子ども
- 学び合いを通して、自他のよさを認め合い、考えを広げたり深めたりする子ども

#### 低学年

- ・ 自分の考えを自分の言葉で伝える子ども
- ・ 自分や友達のよさに気付くことができる子ども

#### 中学年

- ・ 自分の考えをもち、根拠をもって伝える子ども
- ・ 互いのよさを認め合い、よりよい考えを見付けようとするができる子ども

#### 高学年

- ・ 自分の考えの根拠を明らかにし、筋立てて伝える子ども
- ・ 相手の考えを受け入れ、学び合いを通してさらに自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども

### 2 研究の仮説

- ① 問題解決のプロセスを意識した、「東湖小の授業スタイル」を展開し、一人一人の子どもにとって必要感のある学習を工夫することにより、自ら学びを実感し、学習に対する主体性が高まるのではないかと。
- ② 各教科等において、「見方・考え方」を働かせる場面を意図的に設定し、学び合いを充実させることにより、互いに高め合う子どもを育成することができるのではないかと。

### 3 研究の重点と内容

**重点1** 自分なりの根拠をもって考えを表現する子どもの育成

- 意欲や必要感が生まれる課題の設定
- 個別最適な学びの工夫
- 指示物の活用

**重点2** 学び合いを通して、自他のよさを認め合い考えを広げたり深めたりする子どもの育成

- 互いの考えを交流、共有する場の設定
- 思考の連鎖につながる疑問や、板書の工夫とICT機器の効果的な活用
- 自他のよさに気付く振り返りの工夫



# 問題解決のプロセス

つかむ  
◆問題発見・意識化  
見通しをもつ  
◆学びのイメージ化

深める  
◆自力解決  
(考えの言語化)  
↓ ↑  
◆学び合い  
(伝え合い・話し合い)

まとめる  
◆問題の内面化  
振り返る  
◆学習内容・学習方法

「受けてつなぐ言葉」  
「思考の方法と言葉」  
の活用

## 学びの実感！

- ★自分の考えを表現する子ども
- ★学び合いを通して高め合う子ども

- ◆自力解決と学び合いが往還
- ◆互いに伝え合う姿勢の確保と場の設定
- ◆各教科等における「見方・考え方」を働かせる場の設定
- ◆学んだことや身に付いた力を自覚できる振り返りの工夫

## ◎必要感のある学習の工夫（仮説①の立証）

### 6年 算数科「分数のかけ算」

**ねらい** 分数×分数の乗法の計算の仕方について、既習事項などをもとにして考えることができる。

分数×分数はどのように計算したらよいのだろうか。

#### つかむ・見通しをもつ

- 前時の学習を想起し、本時の課題を確認する。

自分の力で考え、本時の見通しをもつことができるように、前時の学習問題（分数×単位分数）を子の表紙に提示し、共通点と相違点を確認する。（重点1）

#### 深める

- 個々の考えを出岐・検証する。

子どもたちが考え出した数直線や表裏形、互換図の考えの中に、一般化につながる共通の法則性があることに気付くことができるように、ロイロノートの数直線・表裏機能を活用する。（重点2）

既習事項の図表から自力解決を促したり、ノートとロイロノートを併用したりすることで、子どもの実感に合わせた必要感のある学習を展開している。



話し合いの際にノートがロイロノートが活用され、根拠を明確にして説明している。

### 3年 社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」

**ねらい** 農家の人が、いろいろな努力をして、なしを生産していることに気付くことができる。

おいしいなしを作るために、農家の人たちはどんなくふうをして育てているのだろうか。

#### つかむ・見通しをもつ

- 前時の学習を想起し学習についての予想を出し合うことで、課題意識を高める。

なし農家の1人1人の仕事内容について、疑問に思ったことを本時の課題につなげることで考えるように、前時で活用した提示板を提示する。（重点1）

#### 深める

- 2枚の紙を土板し、なし農家の工夫について考える。

水の高さの違いから数直線に着目し、なし農家の工夫について考えを膨らませることができるよう、昔ながらのなしの木の写真を提示する。（重点2）

多様な提示物やペア学習などの場の設定により、子どもの考えを掘り下げ、その過程で生まれた気付きや疑問を取り上げながら、一人一人の子どもに必要な感のある学習を展開している。



なし農家の工夫を共有する場面で、友達の見解に反応して驚きながら、話し合っている。



## ◎「見方・考え方」を働かせる場面の意図的設定（仮説②の立証）

### 4年 算数科「がい数」

**ねらい** 切り上げによって表される概数の意味について考え、どのような場面に用いるとよいか理解することができる。

500円で足りるかどうかが知りたい場合は、どのように見積もるとよいのだろうか。

**深める**

- 自力で解決する。
- ペアで交流する。
- 全体で比較・検討する。

自分の力で学習問題を解決することができるように、既習の学習内容を提示し、次の問いを自らで見極め力によりかを誘導する。

根拠を挙げて説明したり、自分の考えを見直ししたりすることができるように、考えを聞いてみかいたを誘導し、ペアで話し合い、互いの考えを伝え合う場を設定する。（重点1）

切り上げによって表される概数の意味を互いの考え方の比較から捉えることができるように、ロイロノートの比較・検討機能を活用して全体で共有する。（重点2）

身近な買い物場面を取り上げ、「何の位に賛同すれば見積もることができるのか」という算数の見方を押さえている。ペアでの交流や全体での話し合いといった学習形態を授業の実態に応じて工夫し、学び合いを充実させている。



ロイロノートの比較・検討機能を活用して、考えを全体で共有している。

### 2年 算数科「三角形と四角形」

**ねらい** 図形を弁別する等の活動を通して、三角形、四角形についての理解を確実にすることができる。

三角形や四角形を見つけるには、どんなところに気を付けたらよいのかな。

**深める**

- 自力で解決する。
- ペアで交流する。
- 全体で比較・検討する。

図形を見ながら一人一人が志願し、合意することができるよう、ロイロノートのシンキングツールを活用する。（重点1）

弁別した理由を説明したり、自分の考えを見直ししたりすることができるように、ペアで交流する場を設定する。（重点2）

「三角形や四角形の定義に基づいて自分の考えを見直し、図形の定義を基に判定して弁別した理由を説明したりすることができるように、電子黒板を使って比較・検討し、全体で図形を弁別する。（重点2）

算数的な活動に没頭する自力解決の時間と、ペアや全体による学び合いの時間が行き渡る授業が展開され、「四角」「閉まれている」など図形の定義につながるキーワードが子どもの言葉で飛び交う学習の場となっている。



提示された全員のシンキングツールを見ながら、図形の定義に基づいて自分が弁別した根拠を発表している。

### 1年 算数科「3つのかずのたしざんひきざん」

**ねらい** 3口の数の加減混合が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、区に表したりすることができる。

たしざんとひきざんがまじっているときは、どのようにけいざんしたらよいのだろうか。

**深める**

- 自力で解決する。
- グループで交流する。
- 全体で比較・検討する。

前時の学習の到達点と共通点から、加法・減法が混合している場合でも「つづ」に表すことに気付くことができるように、前時までの学習の跡が残る「子どものノート」を提示し、表すように声をかける。（重点1）

自分で選んだ「かんがえかたアイテム」（式、図、ブロック、タブレット）を使い、自分の考えの根拠を明確にして表すことができるように、グループ交流の場を設定する。（重点2）

「算数教で考える」タブレットを活用して考える。「ノート」を書く考えるなど様々な考えから、一問一答にたがえる点があることに気付くことができるように、比較・検討の場を設定し、友達に伝えようという問い・掛けをする。（重点2）

「かんがえかたアイテム」から自分で選んだ方法で考え、という個別最適な学びが工夫され、「あげたーへーひきざん」「つくるーかえるーたしざん」という学年で押さえるべき算数の見方を働かせる場面が設定されている。



電子黒板やロイロノートを友達に見せながら、根拠を明確にして説明している。

### 5年 国語科「たずねびと」

**ねらい** 心情や情景などを表す叙述に着目し、「接」の変化や物語の全体像を想像することができる。

物語全体でどのようなことがえがかれているかについて、想像したことを交流しよう。

**つかむ・見通しをもつ**

- 前時にまとめた表を提示し、木時の課題を提示する。

本時の課題解決への足がかりとなるように、「接」の心情の変化をまとめた表を活用する。

物語全体で描かれていることを捉えられるように、「名前」や「場所」などに対する心情を読み取る手がかりとなる表の読み取りを促す。

**深める**

- 表を手がかりに心情の変化を読み取る。
- 物語の全体像について話し合う。

注目した部分から考えたこと大あり、友達と意見を交換して考えたり、お互いを補完することができるように、ロイロノートの共有機能を活用する。（重点2）

教室全体を使った全文や手づくり表の提示により、教材に添った環境が保障され、それらを活用し複数の叙述や根拠となる表現に目を向けさせることで、国語の見方・考え方を働かせる場となっている。



心情や情景などが表れている部分に気を付けながら読み取っている。



## ☆言葉を育む取組

### ひまわり組 自立活動「すごろくトークをしよう」

**ねらい** 「すごろくトークをしよう」交流会を通して、同学年児童とのコミュニケーション能力を高めることができる。

すごろくトークが楽しくなるような質問と答えを考えよう。

#### つかむ・見通しをもつ

- 本時の学習のめあてを明確にする。

#### 深める

- トークの質問内容について考える。
- トークで答える内容を考える。
- 「すごろくトーク」ミニ交流会をする。

本時の活動内容と順序について、絵カードを使って視覚的に確認できるようにする。

教師から質問内容の例を複数提示することによって確認できるようにする。

1年生を迎える会で、自分が得意なことや友達がおもしろいことを振り返ることで、発言にできるようにする。

参加している児童に協力してもらうことで、自分や担任以外の人の考えに興味を持ち、同学年児童と関わる活動への意欲を高めることができるようにする。

「主体性」を育む必然的な体験活動が展開された。教師とのやり取りを通して自己理解を深めるとともに、相手に分かりやすく伝えるために必要なコミュニケーションについて考える場が設定されている。



自分の考えを相手に分かるように伝えたり、関心をもって他の人の考えを聞いたりしている。

### たんぽぽ組 国語科「なつのことばをあつめよう」

**ねらい** 夏に関する言葉を平仮名や片仮名で表すことができる。

これはなんですか。なにをするのですか。

#### つかむ・見通しをもつ

- 練習事項を生かし、4時の視察を確認する。

#### 深める

- 8月のカレンダーづくりをする。
- 「絵」と「言葉」を一致させて書き表す。
- 児童の興味・関心を生かした短冊作りに取り組む。

課題に取り組み意欲が高まるように、児童が夏を楽しく過ごしている写真や、これまで繰り返し学んできた言葉の入り組んだカードを用意する。

夏休みに1か月間活動の進捗が確認できるように、これまで夏に関連したことも思い出しながら、夏休みまでの日数を数え込めるように促す。

本時をイメージしながら自分で言葉に表すことができるように、夏を感じるものの絵と言葉のカードを準備する。また、言葉から文へと結びつけるように、「絵」カードをひょうたん紙を二枚にする。(複数枚)

夏祭りを題材等を用いるなどして日本の伝統文化に親しみながら夏に関連する言葉を書き込めるようにし、書き終った際には月曜日の朝までに先生から「夏を祝う」ように声を掛ける。

これまでの体験を視覚で想起させることで課題に取り組み意欲を高めた。「絵カード」「言葉・文カード」「五・音楽」を活用することで、言葉を増やす場を設定している。

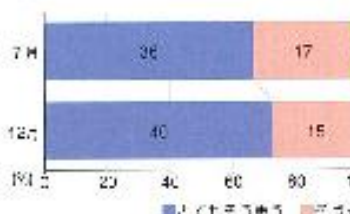


絵と言葉のカードを一致させる活動をしている。できあがった作品は、授業後も机を並べてよく見ている。

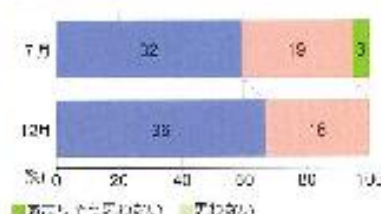
## Ⅲ 研究の成果

- 「東京小の授業スタイル」の実践により、新しい課題や問題を解決してみたいという意欲が高まり、学習事項を生かして次の課題を解決しようとする姿勢が身に付いた。
- 互いの考えを交流・共有する場を意図的に設定したり、ICTを活用した双方向の学びの場を充実させることにより、自分の考えの広がりや新しい気付きを体験できるようになった。

新しい課題や問題を解決してみたいと思う。



友達と学び合う学習を通して、分かることがふふたり、自分とはちがった考えや新しい考えに気付いている。



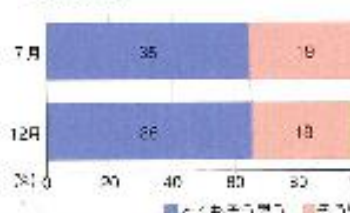
教師アンケート (4名調査)

- 課題解決への意欲への高まり  
7月 20ポイント  
12月 32ポイント
- 1人1人による双方向の学びの充実  
7月 25ポイント  
12月 33ポイント

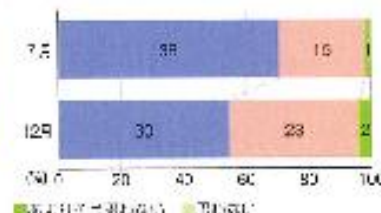
## Ⅳ 研究の課題

- 課題の解決方法を自分で見つけた。根拠を手帳に記録するための方法を自分で探究し学習を進める力がベリ分である。その手立てとなる「指導の個別化」や「学習の個性化」を模索していく必要がある。

課題の解決方法を、自分で見つけようとしている。



自分の考えをしっかりと理由を付けさせたりすることができるように、文や図などを活用させている。



教師アンケート (4名調査)

- 指導の個別化と学習の個性化  
7月 30ポイント  
12月 30ポイント

## V 来年度の方角性：令和7年度統合校（天王小学校）での実践へ

- 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善
- 2 学習スタイルの個別最適化
- 3 自分の考えを整理し、根拠を明確にして伝える力の育成







